
ダイエット制動距離

朝平 夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ダイエツト制動距離

【Nコード】

N4262A

【作者名】

朝平 夜

【あらすじ】

世の中の女性諸君の、共通した行動のお話・・・

制動距離：車のブレーキを踏んだ地点から、車が完全に止まった地点までの距離のこと。

「あたし今日からダイエットする」

教室で、仲の良い友人と談笑している最中、いきなり梢は立ち上がった。

「何よイキナリ」

友人の由里が訝しげに梢を見やる。梢は頭を抱えるようにしながらストンと椅子に座り直した。

「実はさ、昨日ちい先輩とケーキバイキング行ったのね」

ちい先輩とは、梢の所属する美術部の一年先輩である森山千秋のこと。

「あ、食べまくって太ったんだ」

「…ビンゴ」

「ヤバいじゃん、来週は彼氏とケーキバイキング行くんでしょ？で、来月はクリスマスだから新しい服買ったんだよね、確か…」

「1サイズ小さいヤツ」

「そうそれ」

「だって仕方ないじゃん、クリスマスくらいオシャレしたいし、でも可愛いのもそれしか無かったし！しかもケーキは美味しいし！」

わんわんと喚きながら梢。すると今まで黙り込んでいた友人、美和が口を開いた。

「そっか…じゃあ仕方ないよね。残念…」

「何が？」

不思議そうに梢が首を傾げる。すると、美和はカバンから何かのチケットを3枚取り出した。

「この前出来た高級ホテルのディナー券…当たったんだあ。でも梢

はダメみたいだし… 2人で行こっか、由里」

「マジ？ありがと美和！…そだね、梢ダイエットだもんね」

「…………… やっぱり、そのデイナーを体験してからにするわ、だからあたしもっ！」

しばらく考えていた梢は、とうとう音を上げた。

ダイエット制動距離… ダイエットをしようと思ってから、実際にやり始めるまでの期間のこと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4262a/>

ダイエット制動距離

2010年10月26日09時02分発行